

経営比較分析表（令和3年度決算）

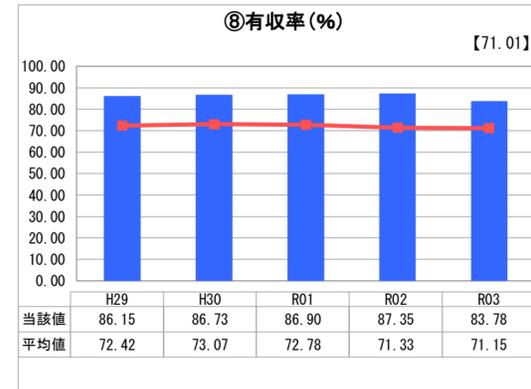
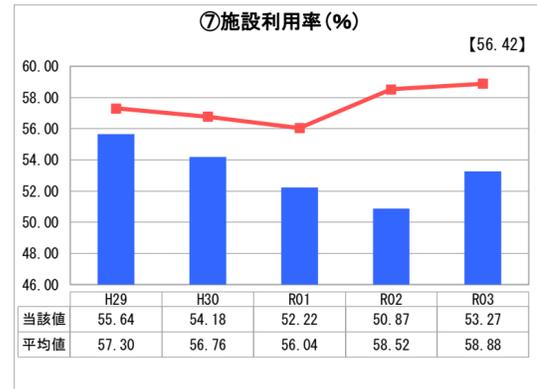
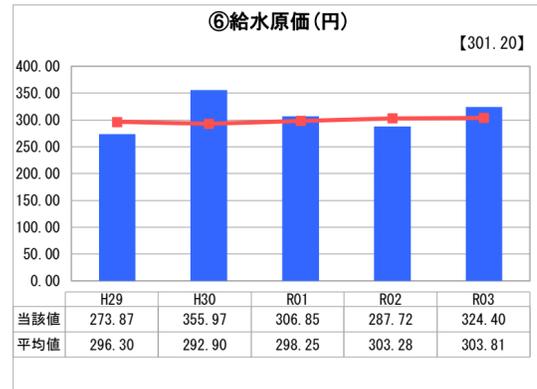
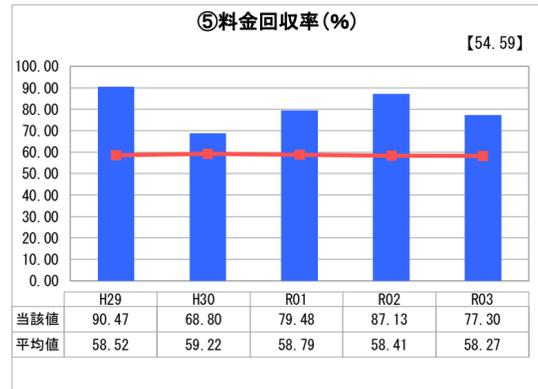
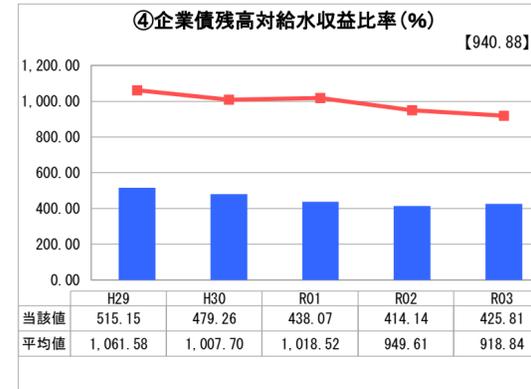
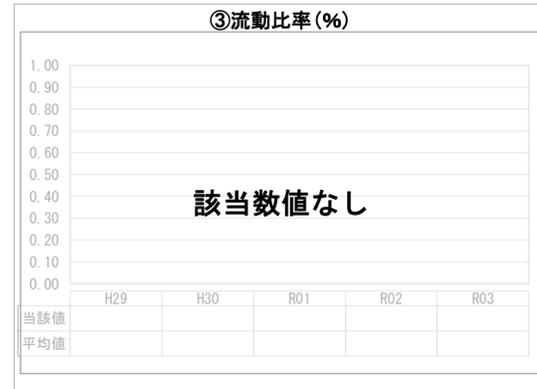
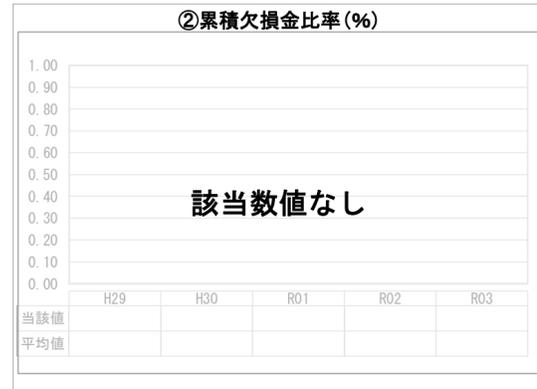
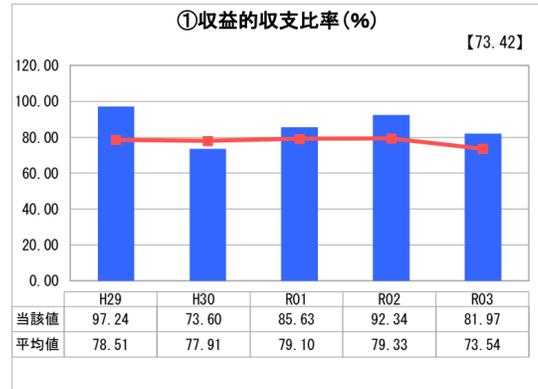
長崎県 小値賀町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	99.47	4,090	

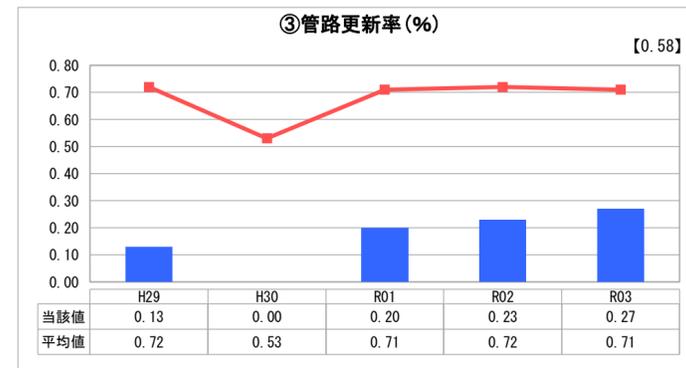
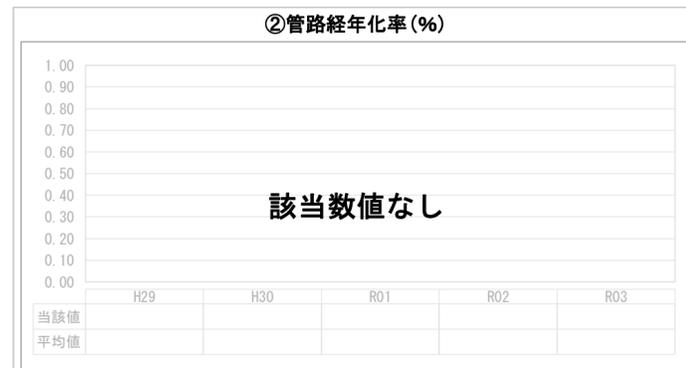
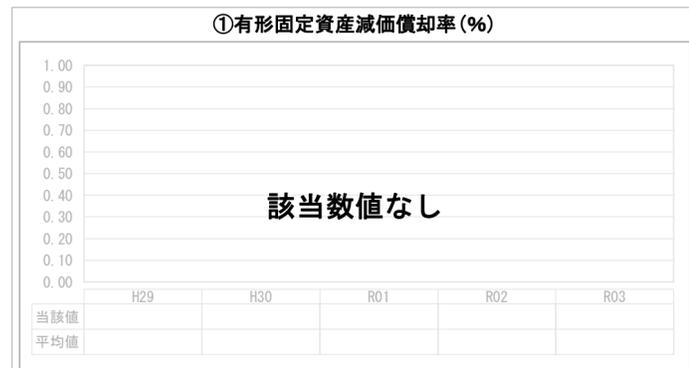
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,284	25.50	89.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,251	17.20	130.87

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町の簡易水道事業は、約1,450戸の世帯に給水を行っており接続率は100%である。収益的収支比率を見ると前年と比較して減少しており、給水収益が減少していく傾向にあるため、経営改善が必要と考えられる。企業債残高対給水収益比率は増加しているが、要因として令和2・3年度において補助事業を行っており、又今後は老朽化に伴う更新も増えていくので、経営改善を図っていく必要があると考えられる。料金回収率は前年度と比較して減少しているが、類似団体平均を上回っており適切な料金収入の確保ができていく。給水原価は、令和3年度で324.4円であるが、今後総費用の増加や、有収水量の減少などが予想されるので状況を把握・分析する必要がある。施設利用率については、令和3年度53%程度である。水は限りある資源であるので負荷率を考えると現状の値が適当である。有収率については類似団体平均値より高くなっているが、令和3年度に減少している状況である。有収率90%以上を目標に更なる運営努力を行っていく。

2. 老朽化の状況について

令和3年度においては、管路更新率0.27%となっており配水管布設替えを行っている。施設や管路については、今後、老朽化が進むにつれ適切な維持管理・更新が必要とされるので、より効果的な対応を行い施設の延命化及び、管路の更新・耐震化を図る。令和2・3年度において、水道監視システム更新を実施し老朽化改善を図っている。

全体総括

人口減少による水道料金収入が減少する可能性が高く、また年々、施設の老朽化が進行しており、起債事業が多くなることが予想されることから、更なる経営改善が必要と考える。令和6年度から公営企業会計への移行を実施する。